

2024 年度版 NPO 法人にじいろ CAP

日本財団助成金

「CAP プログラムと連動した アドボケイト派遣事業」マニュアル



Supported by
 日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

はじめに

全国の CAP スペシャリスト各位
CAP スペシャリストを目指す皆様方へ

NPO 法人にじいろ CAP 代表理事 重永侑紀

「CAP プログラムと連動したアドボケイト派遣事業マニュアル」を手にとってくださり、ありがとうございます。またこの事業に関心を寄せてくださいましたことを心よりうれしく思います。

全国にある「CAP グループ」は 1994 年に「子どもの権利条約」を日本が批准した翌年から、子どもの権利啓発活動をベースに「子どもへの暴力防止」活動を行なってきました。長い年月を経てようやく国をあげて「こどもまんなか社会の実現」をスローガンに「こども家庭庁」の設置、「こども基本法」が施行されました。そして 2024 年度、国及び都道府県政令指定都市の責務として社会的養護のもとに暮らす子どもたちの意見表明権を保障すべくアドボケイト派遣が始まり「子どもは権利の主体者」であることを常識だと謳える時を迎えました。この 30 年間、何度『権利』『エンパワメント』という言葉を使わずに講演を行なってほしい」と言われたことでしょう。コツコツと地域で活動してきたことが実を結んだような気持ちにさえなりました。

全国にある「CAP グループ」の中でも私たち「にじいろ CAP」は数多くの自治体と協働し、子どもの権利啓発事業に取り組んできましたし活動依頼が年間 1000 件を超えています。2020 年に始まったコロナ禍であらゆる事業がストップした最中であっても「このような事態だから今こそ、子どもの権利だ」と活動を止めることなく推進してきました。そもそも希薄化していた地域のつながりはコロナ禍で一気に空洞化へと退歩した感があります。子どもと社会との距離感が深まった、広がったと言わざるを得ません。だからこそ新型コロナウイルスが第 5 類に移行された 2023 年度に私たちは子どもを取り囲む重層的な空間を作るため、この事業に取り組むことにしました。

CAP 子どもワークショップでは「あなたがいやなことや困ったことにあった時、誰に相談しますか？」と質問をします。もちろん家族と答える子どもはいます。しかし、コロナ禍から一気に「学校の先生」と答える子どもたちが増加しました。ここにも地域と子どもとの距離感が窺えます。さらに CAP プログラムは「教職員ワークショップ」と「保護者ワークショップ」の 2 つの「おとなワークショップ」実施後に「CAP 子どもワークショップ」を開催するプログラムです。ところが保護者が仕事を休み、PTA 開催の研修会や学習会に出席することは難しくなり、家族以外のおとなといえば「学校の先生」というのが令和の子どもたちのリアルな生活です。

子どもが安心して自信を持って自由に自分の権利を行使するには、家族でも学校の先生でもない「斜めの関係」である地域の人たちに「子どもの声を聴く」役割を担ってもらえる仕掛けが必要です。「開かれた学校」が望まれています。もはや学校現場には人も時間も余裕はありません。学校の先生方の手を煩わせることなく安全な居場所を運営する信頼できる NPO が必要です。子どもにかかわる市民と、子どもが通う権利を持つ学校とつなぐ役割は全国の「CAP グループ」が最適ではないでしょうか。令和の子どもたちのリアルなニーズに応える事業に皆様も一緒に取り組んでいただけることを期待し、マニュアルを作成いたしました。

末尾になりましたが、「やらなきゃわからない」の 1 年目、「どこの地域でもやれるのか」の 2 年目をモットーにチャレンジする私たちを物心両面で支えていただきました日本財団および担当者様に心から感謝申し上げます。

1. CAP プログラムとは

CAP（キャップ）とは、Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止の頭文字をとってそう呼んでいます。子どもがいじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムです。



CAP のトレーニングセンター

CAP プログラムを実践する資格は、南部エリアでは認定 NPO 法人 CAP センター・JAPAN（大阪市）、北部エリアでは一般社団法人 J-CAPTA（札幌市）のトレーニングセンターが行う一定の講座を受講し得られる「CAP スペシャリスト」によって行われます。

認定 NPO 法人 CAP センター・JAPAN（南部エリアトレーニングセンター）では

「子どもへの暴力防止のための基礎講座」21 時間＋「CAP スペシャリスト養成講座」21 時間を受講し、地域の CAP グループに登録し活動することとしています。

NPO 法人にじいろ CAP とは

* NPO 法人にじいろ CAP のミッション

子どもへの暴力を防止することを通して暴力のない社会の実現に寄与すること

* NPO 法人にじいろ CAP のビジョン

①子どもには、人権教育を核として子どもの「安心・自信・自由」の大切な権利を奪う

あらゆる暴力から自分を守るための知識とスキルを提供すること。

②おとなには、子どもの人権の理解と援助を啓発するための事業を行うこと。

団体の実績

多くの自治体と協働して実践しています。

福岡市・福岡市中央区・福岡市城南区・福岡市博多区・福岡市西区・福岡市南区・福岡市東区

久留米市・飯塚市・嘉麻市・大野城市・那珂川市・佐賀市・小城市・多久市・鹿島市・吉野ヶ里町・

みやき町・有田町等



2023 年度の実施実績

子ども 16000 人にプログラムを提供。おとな 10000 人に啓発事業を提供

NPO法人にじいろ CAP が取り組んでいる主なプログラム

CAP (Child Assault Prevention) プログラム

子どもへの「さまざまな人権侵害（暴力）」防止プログラムはアメリカで開発（1978 年～）されたプログラムです。

CAP プログラムは、学校や保育園等で行うためにつくられたプログラムです。

教職員ワークショップと、保護者地域ワークショップを行い、その後、子どもワークショップを行うプログラムです。おとな向けのワークショップは単独実施できますが、子どもワークショップの単独実施はお引き受けしていません。

小学生版

安心・自信・自由の権利について→いじめについて→知らないおとなにあって怖いことがあったときについて→知っているおとなから「いやなさわられ方」をした時について→信頼できるおとなに

相談する→相談できる先の紹介→CAP スタッフに相談をする時間となっており全部で 90 分間の構成です。

年齢や発達に合わせたプログラムがあります。

(就学前・小学校 1~2 年生用／3~4 年生用／5~6 年生用・中学生用・障がいのある子ども用)

さくらんぼプログラム(思春期プログラム)

当法人が開発した思春期向けのプログラムです。デート DV 防止編といじめ防止編・自殺防止編の 3 タイプがあります。中学 2 年生を対象にした 1 学年を対象に 50 分間で実施し、終了後、教室でグループごとに振り返り (30 分) をするプログラムです。

思春期あるある→思春期の誰にでも起きることについて→自分の守り方→友達の守り方→特に親しい人間関係の練習→恋人バージョンの例をロールプレイで見る→親しい関係でも互いの境界線を守れる→ロールプレイ (2) ヘルシーな関係のモデル→思春期は自分をデザインしていく時間→こんな時は SOS を出す時→まとめ (保健所等からの情報を受け取る)

中学生は、同調圧力が高いため他人事のように参加できるように構成されています。バラエティに富んだ手法を用いて 50 分間が構成されています。アンケートには「自分だけだと思っていたことが、誰にでも起きることだと知って安心しました。」「イヤだと感じていることを言うことも、伝えることも悪いことではないと知って安心しました。」「今、自分に起きていることは暴力なんだとわかりました。SOS を出していいんだなと思えて安心しました。」のような声が寄せられています。

トリプル P (positive parent program)

オーストラリアで開発されたプログラムです。日本では「前向き子育て」と表現され活用されています。このプログラム実践の資格を持ったスタッフが保護者向け、保育士向けに活用しています。

ペアレントトレーニングとして最大 12 人を対象に 8 回セッションで行うことを目的として開発されたプログラムです。★保護者むけワークショップでは、トリプル P の用いた内容を加えて実施しています。

【子どもアドボカシーとは】

アドボカシー（advocacy）とは、すべての人には自分の意見を表明する権利があるという人権を基盤とした考え方や制度。

社会の構造上、一定数、属性によって意見を発信しづらい、発信しても対応されない、矮小化される等があることを踏まえて権利を保障するためのシステムと、その意見を発信できるように意見形成支援や意見表明支援を行う行為を指す。

子どもはその発達過程にある属性によって意見を発信しづらく、発信しても対応されない、矮小化されやすいため、世界 196 ヶ国が「子どもの権利条約」を批准し、我が国においては「こども基本法（2023 年 4 月 1 日施行）」によって、子どもの意見表明権の保障するよう制度化されている。

「都道府県等において、引き続き、子どもの権利擁護の取組みを推進するため、① 子どもの権利擁護の環境整備を行うことを都道府県等の業務として位置づけ、② 都道府県知事又は児童相談所長が行う措置等の決定時において、子どもの意見聴取等を行うこととし、③ 子どもの意見表明等を支援するための事業を制度に位置づけ、その体制整備に努めることとする。厚生労働省 HP より部分抜粋」と児童福祉法改正が行われた。

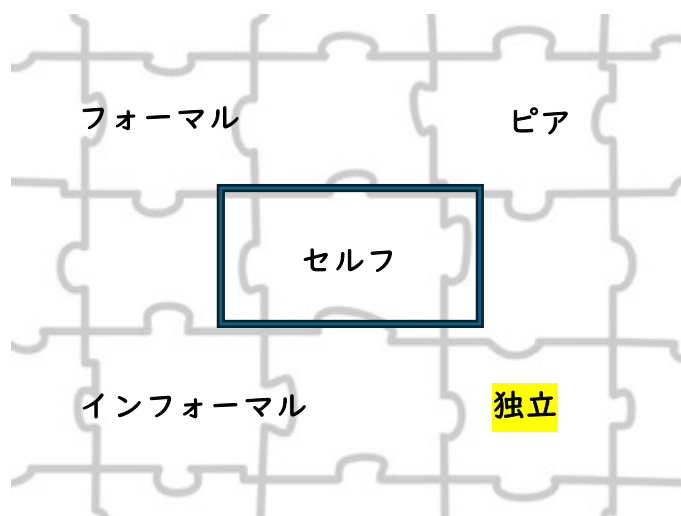
【子どもの意見（声）】

「意見」という日本語を聞くと opinion を発想しやすいが、子どもの権利条約（2005 年に採択された国連子どもの権利委員会一般的意見第 7 号）に「乳幼児期の子どもの意見および気持ちの尊重（respect for the views and feelings of the young child）が重要であることが指摘された。たとえまとまった意見でなくとも、気持ちであっても、それは赤ちゃんの意見表明・参加である。そして乳幼児期の子どもの参加の権利を達成するためには「おとなが子ども中心の態度をとり、乳幼児期の子どもの声に耳を傾けるとともに、その尊厳および個人としての視点を尊重すること」が求められる。

【子どもアドボカシーググゾー】

子どもが様々な立場の人や体験の中で自らの意見を言語化し、他者の権利を奪うことなく自己表現できるよう発達を支える役割が国および地方公共団体の責務である。

わが国においては児童人口の 0,3%である社会的養護を受ける子どもにのみ制度化されている。またコミッショナーやオンブズマンは制度化されておらず道半ばであることも付け加えておく。



2. CAP プログラムとアドボカシーの概観

	CAP プログラム (子どもへの暴力防止プログラム)
資格発行者	認定 NPO 法人 CAP センター・JAPAN (大阪市)
	子どもへの暴力防止のための基礎講座 21 時間 CAP スペシャリスト養成講座 21 時間を修了後 地域の CAP グループに所属をし登録。 3 年に 1 度の資格更新研修を受講する。 活動報告をトレーニングセンターに行う。
プログラム内容	CAP 教職員ワークショップ ↓ CAP 地域保護者ワークショップ ↓ 担任との事前打ち合わせ ↓ CAP 子どもワークショップ ↓ トークタイム ↓ 担任との事後振り返り
活動者の名称	CAP スペシャリスト
収入源	自治体からの委託費用

	にじトーク (学校アドボカシー)
資格発行者	NPO 法人にじいろ CAP
	CAP プログラムに連動する学校アドボケイト養成講座 理論編 5 時間 + 演習編 5 時間 修了後 OJT (実地研修)
プログラム内容	規定の小学校の昼休みに月に 1 度訪問 会場にて 小学生に対応する 危険な場合や通告を必要とするケースの場合には 「コンシェルジュ」に報告する。
活動者の名称	CAP スペシャリスト資格者 → コンシェルジュ にじトーク資格者 → トークスタッフ
収入源	助成金 (日本財団)

*子どもが安心して話したいことを話したり、聞いたりできる環境を作るため CAP プログラム同様にコンシェルジュも、トークスタッフも居住校区の学校では活動をしません。と同時に、子どもたちに必要なコミュニティの人たちとの接点も必要であることから、トークスタッフは校区ではないが近隣の、あるいは市内の市民が担うことをこの事業の意義としています。

*養成講座の中で、CAP スペシャリストの役割（にじトークの中では「コンシェルジュ」）と、アドボケイト役である「トークスタッフ」を混乱しやすかったためこのような表を持って比較提示することが必要でした。

*収入源に関しては、助成金で活動しつつ自治体への働きかけであったり、効果を整理したり、自治体の事業として可能にできるよう検証を積み重ねました。

3. 5つの根っこから生み出された「にじトーク」

CAP プログラムは5つの理念に則って構成されています。

- * 人権
- * フェミニズム
- * エンパワメント
- * 多様性
- * コミュニティ

これらの5つの柱を、にじトークにおいても変わらず根幹となるよう組み立てて実施しました。特に第二波フェミニズムが発見した家庭での暴力が存在することを前提にして活動を行っています。そのことによって、あらゆる話題を子どもがトークスタッフに向けてもタブー視することなく、安全に最後まで子どものペースで話せるようにしています。トークスタッフが1人では判断に迷うことや、アセスメントが難しい場合には、CAP スペシャリストである「コンシェルジュ」をいつでも遠慮なく呼べるように何度も OJT を含めた確認作業をしました。

にじトークにおいて、この部分は非常に大切であり、学校にアドボケイトを派遣することと同時に、地域市民と協働できる良さにもつながっている部分です。

4. マニュアル

① 実施までのマイルストーン

学校の昼休みに活動できる市民との協働であることを考慮し、養成講座は平日の昼間に実施すること。

実施するエリア内、もしくは近隣の会場を選ぶこと。

公民館や子どもに関わる NPO 等の団体に手渡しや、口コミを活用すること。

② 自治体への広報と支援

子どもの権利について広く市民に啓発することを同時に行うことを勧める。

自治体が抱える「行政課題」例えば児童虐待防止や子ども若者の自殺防止、あるいは子育て支援等における市民の協力は欠かせない。そのことも含めて注目してもらうことや、資金援助や、広報支援にサポートを得られやすい。

地域セミナーの開催を経て、養成講座を用意すると協力的に広報を支援してもらいやすい。

③ 教育委員会に自治体と挨拶・説明

この事業は、学校を活動の場とするため教育委員会に話を通しておく必要がある。直接的な活動資金援助を得るためではなく、実施する校長にとって教育委員会が否定していないことは必要な条件となるからだ。

自治体担当者とともに、教育委員会に説明を行うなどの協力も非常に有効だった。

④ 実施校の選択とその根拠を整理する

予算に応じて選択する。

地域セミナーの開催費用

養成講座の開催費用

トークスタッフ 1 回あたり 4 人程度の時間給と、コンシェルジュの時間給および交通費を考慮し、実施校を選択肢、実施回数を設定する。

学校規模が極端に大きいところでなければ同じような必要人数となる。

なぜ、その校区を選択するのか目的を明文化しておくことも勧める。

⑤ 学校にアポイントメントを取る

あらかじめ文書をもって挨拶に行く。

あらためて説明をするためのアポイントメントを校長に得ておく。

必ずメール等で予約を確認する。

⑥ 学校長に説明をする・確認書案を作成しておく

確認書添付しておく。「確認書（案）」

これらの紙媒体を持参し、丁寧にかつ説明をできるようにしておく。

この事業は学校に極力、負担をかけないことが継続実施の要素なので的確に行う。

⑦ 教頭と主幹教諭との打ち合わせ

校長の確認を得たら「確認書（案）」の（案）を取り、確認書として教頭または主幹教諭と具体的な手順等を説明しておく。

学校側にしてもらふことと、任せてもらえることを分けて説明することが大事だった。



各学校に配ったポスター
権利の主体者としての強さを
アピール



各学校の該当学年の子ども一人一人に配ったチラシ裏。表は、ポスターと同じ。

2024 年度日本財団事業

CAP プログラムに連動する学校アドボカシー事業「にじトーク」実施における合意事項の確認書

〇〇小学校

学校長 XXXXXX 様

関係各位

NPO法人にじいろ CAP

代表理事 重永 侑紀

事業担当者 田原 泉

nijicap@nijicap.com

0942-50-XXXX

緊急時 090-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (△△)



項目	内容
事業目的	「SOS の出し方ワークショップ」として、CAP プログラムを自治体の事業として実施しています。このプログラムを通して、権利教育や SOS を出すことや、聞かれる権利があることを体感した子どもたちに向け、子どもの権利条約第 12 条子どもの意見表明権である子どもアドボカシーを、市民活動の一環として今後、各地で実現できるよう検証していくための事業です。
実施者	NPO法人にじいろ CAP スペシャリスト 1～2 名 にじトークスタッフ 2～3 名 (※トークスタッフとは、NPO法人にじいろ CAP が主催する「学校アドボカシー養成講座」2 日間および、OJT による実習体験を経たスタッフです。)
実施期間	2024 年 12 月～2025 年 9 月
実施時間	毎月 1 回 貴校の昼休み時間 12:55-13:35 (実施時間 30 分前に貴校に訪問し、実施後 30 分以内に現場復帰をした後、解散します。)
対象学年	基本的には 3～6 年生を対象とします。(CAP 実施学年によって異なる) 低学年の子どもが来場した場合に断ったりはしません。
おおよその参加人数	昨年度の実施校では 40～80 人が来場しています。
実施手順	30 分前到着 (駐車スペースでスタッフが揃うまで待機) スタッフが揃い次第、担当教諭にお声かけします。 「にじトーク」実施日であることを広報するため、該当学年の教室の前を通りながらスタッフ 1～2 名が黙って通ります。(ぬいぐるみ等を持参し通りますので、子どもたちの目にとまります。)

	<p>他のスタッフは、会場設営をします。</p> <p>受付設営</p> <p>アートスペース設営</p> <p>フリースペース設営</p> <p>トークスペース設営</p> <p>全体をマネジメントするスタッフ「コンシェルジュ」は、にじいろ CAP スペシャリストが行います。</p> <p>トークスペースで待つスタッフは「にじトークスタッフ」が行います。</p> <p>（にじいろ CAP スペシャリストが行う場合もあります）</p> <p>昼休みの時間が終わると片付けを始めます。</p> <p>現場復帰した後、担当教諭にお声かけをします。</p> <p>参加者数及び全体の雰囲気について報告をさせていただきます。</p> <p>駐車スペースで簡単な振り返りをスタッフが10分程度、行う場合があります。</p> <p>その後、解散します。</p>
合意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日程調整や緊急連絡の場合の担当教諭は、（ ）と致します。 2. 実施する会場は、（ ）で行います。 3. 駐車する台数は3台程度です。 4. 到着後すぐに（ ）に訪問を知らせます。 5. 給食時間時に、校内放送をお願いします。（担当：CAP or 貴学校） 6. 終了後、（ ）に参加人数と全体の雰囲気について口頭にて簡単な報告をさせていただきます。CAP プログラムのようなフィードバックはありません。 7. 虐待等が疑われる相談があった場合には、（ ）に報告をします。 8. 事業開始時には「ポスター掲示」「チラシ配布」にご協力をください。 9. 事前アンケート <p>教職員の方々及び3～4年生の児童を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 日本財団への報告のための写真撮影（他には使用しません）可。
初回実施日	月日（曜日）

⑧ 確約書を提出

⑦の際に、確認書を渡す。

⑨ 担当教諭（窓口）と打ち合わせ

趣旨を心得ていただき、会場を選ぶ。

4年生以上の子どもたちが参加しやすい動線のさきに会場（教室ほどの大きさ）があることが望ましい。低学年のクラスの近くの会場、広すぎる場所を選ぶと、予想外の出来事がおき、対象とする学年の子どもたちの参加が難しくなる。

⑩ 日程調整・会場設定

5. 養成講座マニュアル

まず当該事業における2つのアドボケイトを定義します。

(A) コンシェルジュ

にじトーク会場の全体を見渡して安全管理と学校とのやりとりを行う**アドボケイト**

(B) トークスタッフ

話を聴いてほしい・話をしたいという意志を持ってきた子どもの話を「トークスペース」で待つ**アドボケイト**

「にじトーク」には、この2種類のアドボケイトで運営されます。

(A) コンシェルジュは、CAP スペシャリスト資格を有し日常的にCAP 活動を実践している者が担います。コンシェルジュ研修会を別途おこない、学校とのやりとり方法やトークスタッフへの関わりやフォローの仕方、子どもへの関わり方を共有化します。なお、CAP プログラムの実践時と「にじトーク」の実践時との共通点と相違点を確認します。

にじトークコンシェルジュ研修

確認事項

1. コンシェルジュの役割

① 学校に対して

- ・来校の挨拶をおこなう：担当窓口教諭（学校ごとに違う）
- ・校内放送をおこなう：例 「(〇年生、〇年生、〇年生（該当学年）の皆さんにお知らせです。こんにちは。〇〇〇〇です。今日は、にじトークの日です。楽しかった話、嫌だった話、自慢話、なんでも聞かせてください。本日、お昼休み（ ）で待ってま〜す。」

- ・予定されていたトークスタッフが来ていない場合はCAP 事務局へ連絡をする。
- ・帰りの挨拶：担当の教職員に参加した児童数・ざっくりとした全体の様子・共有すべき気になったこと。※個人の内容は伝えない（守秘義務の例外を除く）

② こどもに対して

- ・案内ボード（写真1）を首から提げて案内役を行う。



写真1
体の前と後ろに案内ボードが見えます。

- ・受付、帰りのシール添付補助を「こども中心」を重視して行う。
- ・「待ち状態」の児童に対して対応をする。※整理券を配布する。

- ①「どのトークスタッフでもいいのか、〇〇さんがいいと決めているのか」
- ②「どのくらいかかりそうだ（という見通し＝説明責任）」
- ③ 代替案の提示
- ④「どうしますか？」（余裕があれば『私がききましようか？』と提案する等）
- ⑤ どうしても時間不足の場合は、

「次回には優先的に対応しますから今回はごめんなさい。

次回来た時に、案内ボードを下げている人に言ってください」と伝える。

- ・トークスタッフからのヘルプに対しての対応

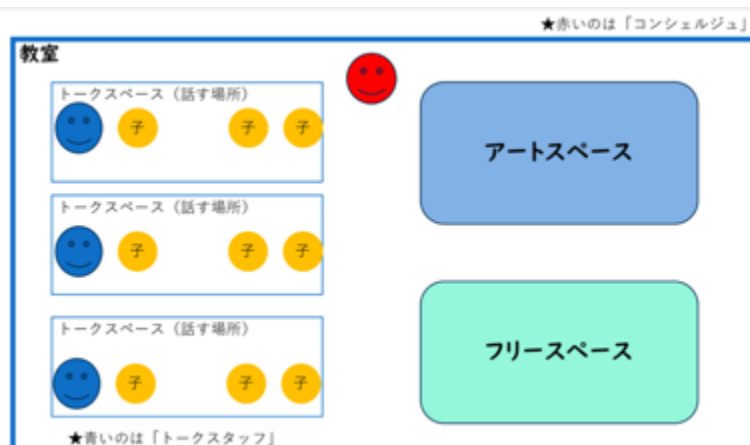
- ①速やかにトークスタッフのところに行く。
- ②こどもに「一緒に聞かせてもらってもいいですか？」と伝える。
- ③YES→トークスタッフから内容を聞く。
→本人にトークスタッフの言った内容と齟齬がないか確認をとる
→選択肢を一緒に考える。あるいは説明する。（開示する必要性がある場合）

③ トークスタッフに対して

- ・案内ボードを首から提げて案内役
- ・受付、帰りのシール添付補助
- ・にじトーク終了後に、「気になったこと、質問はないか？」等聞く。

2. 注意点：CAP プログラムとの共通点と違いについて整理しておく。

- a. コンシェルジュ役として選択肢を積極的に示し、子どもが選べるように提示する。
- b. スタッフ同士での「おしゃべり」は避ける。非常に短い時間の活動なので子どもに集中する。
- c. 先生に伝えてほしい、と子どもが依頼したケースの場合、CAP のフィードバックとは違うので「アドボケイト」として子どもが伝えてほしいと願ったことのみを伝えること。SW にならないよう注意する。また、どのように伝えたのか、どのようになったのか次に「そのこども」がきた場合には、確認を取る。本人へのフィードバックまでのプロセスが「アドボカシー」であることから忘れないように記録と記憶と、引き継ぎをおこなう。



会場見取り図例

- (B) トークスタッフは下記の養成講座を修了し当グループに登録したものを指します。
トークスタッフ養成講座・・・2024 年バージョン 2 日間開催 トータル 10 時間
目的：2 日間で大まかな目的や意義を共有する。
「子どもの権利」をベースにアドボケイトを実施できること。
平和な日常を大切にするための新しいアプローチを学ぶこと。
話の聴き方を練習して、子どもが言いたいことや聞きたいことを表現できること。
(子どもから本音を聞き出すための養成講座ではない、と強調した。)

1 日目（理論編）

- ① アドボケイト派遣の大きな目的をシェアする
 - A) 人類の子育てから考えて「子どもたちに必要な環境」
 - B) アタッチメントの発達を考慮した「アタッチメントの補完」
- ② にじトークの概要
- ③ CAP 子どもワークショップとつなぐ
- ④ トークスタッフの役割

2 日目（実践編）

- ① 言葉の整理
 - A) アドボカシーとは何か
 - B) 「CAP」と「にじトーク」の共通点と相違点とは
 - C) 子どもは権利の主体者であることを腑に落とす作業
- ② にじトークのリアル
- ③ トークスタッフさんへ
- ④ 練習タイム
 - A) 子どもがトークスペースに来た時
 - B) よく聴く
 - C) 同感と共感 境界線を引く
 - D) 評価しないおとな
 - E) 恋バナの時
 - F) CAP 子どもワークショップの言葉をできるだけ使おう！
 - G) “おいおいおい！”と言いたい時（STOP の仕方、考え方）
 - H) 子どもが帰らない時（声掛け例、考え方）
- ⑤ おとな同時もアサーティブ（率直な会話）に
- ⑥ 最後に

6. 効果的な広報スタイル

- 地域セミナーを開催し事業説明と成果、これからの活動期待をおこなう。
 - 地域セミナーでは CAP プログラムについての広報もおこなう。
 - 地域セミナーに参加した人たちに「アドボケート養成講座」の案内を提示する。
 - 地域の公民館やまちづくりなどの NPO を周り、紙媒体での広報をおこなう。
 - 地元新聞に掲載依頼をする。
 - 養成講座は「にじトーク」開催に合わせて平日の昼間に開催する。
 - 養成講座では CAP スペシャリスト養成講座の案内も併せておこなう。
- 2 回実施し上記のようなやり方がさらに効果的ではないかと導き出した。
- 1 回目は広く SNS で呼びかけたことで広範囲の参加者となり交通費等の予算拡大になったから。
- 子どもにとって校区内の市民だと情報が家族に伝わることなどが心配。しかし自分の校区を理解しているおとなに安心感を覚えるからだ。

養成講座チラシ（例）



Supported by
日本財団
THE YAMATO
FOUNDATION

にじいるCAP 主催

学校アドボケイト 養成講座

受講料：2,000円
初回会場にて徴収いたします。

にじいるCAPは、
幼児、小学生、
子どもへの暴力防止
活動や子育て支援
などのアドボケイトを
学校・家庭へ提供し
ています。



にじいるCAPでは
2023年度に学校及び
児童養護施設にアド
ボケイトを派遣する
事業をしました。

講座受講後、
希望者は、アド
ボケイト活動
派遣事業に参加
することができます。

子どもの話を聞き持ちを聴くトレーニングをして、
学校でアドボカシー活動を行う人を養成する講座です。

子どものために何かしたい！子どもの為の居場所作りをしたい！
子どもの児童養育を保障したい！そのため現場はどうしたらいい？
そんな疑問を解決できる時間です。

申込締切 4月5日	佐賀会場	10月 4/13 土 10:30～16:30
	福岡会場	20日 4/14 日 10:30～16:30
申込締切 4月11日	福岡会場	10月 4/15 月 10:30～16:30
	福岡会場	20日 4/17 水 10:30～16:30
申込締切 4月23日	久留米会場	10月 4/27 土 10:30～16:30
	久留米会場	20日 4/28 日 10:30～16:30

講座内容

- ・1日目 理論編
- ・2日目 実践編

申し込みの要

- ・原則として2日間とも受講できる方に限ります。
- ・前日講義は別会場で開催受講することが出来ます。

申し込みの際は、お名前、希望会場、連絡先（メールアドレス・電話番号）、所属先などをお知らせください。

お申し込み・お問い合わせ

【にじいるグループ】 特定非営利活動法人 にじいるCAP
 nijicap@nijicap.com QRコードからもお申し込みできます！

☎ 0942-50-9555

7. にじトーク マニュアル(2024 年度 Ver)

マニュアルの目的：子どもが安心して自信を持って自由に意見表明権を行使できる空間にするため。


子どもにとって、そこに居るおとな（アドボケイト・コンシェルジュ）が安心する権利と自信を持つ権利と自由に生きる権利を保障できるおとなであり続けるため。

このマニュアルは年々進化し続けていきます。2023 年度「つどえ！こどもひみつ集会 にじトーク」報告書 P28～マニュアルと併用してお読みください。

【にじトークスタッフの心構え】

トークスタッフのモデル

- 1. 安心**
子どもが安心できる近くのおとな
- 2. 自信**
他者の意見を受け取ることができる
子どものモデルになれる強いおとな
- 3. 自由**
子どもと対等に付き合える選択肢になれる
おとな





2023 年度の報告書
こちらからダウンロードしてください

- ・ おとなにしないことは、子どもにもしません。
- ・ にじトークの時間は、意識的に「指導者」や「保護者」等の日常的な役割から一旦、おります。
- ・ アドボケイトのボスは子どもです。
- ・ 私たちは、子どもが選び決められるように選択肢を用意します。
- ・ にじトークは自己選択の権利を徹底する場です。
- ・ 会場に入ってきた瞬間から一つ、一つ子どもが選びます。何色のシールを貼るのか？今日は、にじトークで何をするのか子どもが決めます。私たちはその決定を喜ぶだけです。

【子どもに あんしん・じしん・じゆう な「にじトーク」を提供するおとなになるために】

- ・ 子どもが呼びやすいニックネームをつけます。
- ・ 「名札」をつけましょう。
- ・ スタッフ同士も「〇〇先生」「〇〇さん」と呼ばずに、ニックネームでお互い呼び合います。
- ・ 並ばせる必要・やり直させせる必要はありません。
- ・ 子どもたちが選べるように道具はあるだけ出します！（ケチらない！）
- ・ うれしそうに子どもを見てください。ご自身にとっても楽しい時間でいてください。

- ・ 落ち着いていてください。
- ・ 遊んであげたり、教えてあげたり、正してあげたりしないでください。
- ・ 私たちおとなも弱みを堂々と開示できるモデルになります。
- ・ 分からないことは「分からない」「教えて」と言います。
- ・ 子どもにもおとな同士でも率直に言います。
- ・ 腕組みはしません。視線は合わせます。
- ・ にっこり微笑みます。
- ・ 困っている子どもに声をかけます。
- ・ 「何か手伝えることはありますか？」
- ・ 「私にしてほしいことは何ですか？」

よくある質問に答えます。

Q & A 子どもがあなたの膝に乗ってきたら？

- ・ おとなから子どもに許可なく触りません。頭ポンポン、膝に乗せる等子どもが望んでもしません。
- 「これは安心なの？」
- 「そうか、安心なんだね。だけど私はこの距離は安心じゃないから、横に座ってくれるかな？」
- 「ありがとう（ニコッ）」等、子どもに率直に声をかけて適切な距離感を保ちます。

Q & A 子ども同士のぬいぐるみの取り合いが始まり喧嘩寸前。「危ない！」「やめなさい！」と言いたくなる場面に遭遇した場合はどうしたらいいの？

- ・ 「ストップ」と声を荒げずに一旦停止を促します。「だめ」と叱責をしたいわけではありません。
- ・ 「聞いてくれてありがとう」
- ・ 「あなたに怪我をしてほしくないから一度、ストップしましょう。」
- ・ 「安全に続けるためにはどうしたらいいと思う？」と口調は穏やかに、毅然とした態度で声をかけ、提案をします。怒鳴る必要はありません。そして出来るだけタイムリーにその場に行きます。
- ・ もし、おとなが体を張って止める場合は、穏やかな口調で「体触るよ。ストップ、ストップ。私の話を聴いてくれてありがとう。」と声をかけてから止めます。
- ・ 困っているだろうと思う側の子どものに「今のは嫌じゃなかった？嫌って言っていいよ」と声をかけます。解決したり、その場を収めたりする必要はありません。
- ・ 「これでいいのか？」「これで良かったのか？」と葛藤を持つことでしょう。
- ・ アドボケイトとは常に葛藤の連続です。葛藤は子どもへの敬意の表れでもあります。
- ・ 必要な葛藤は、これからも持ち続けましょう。

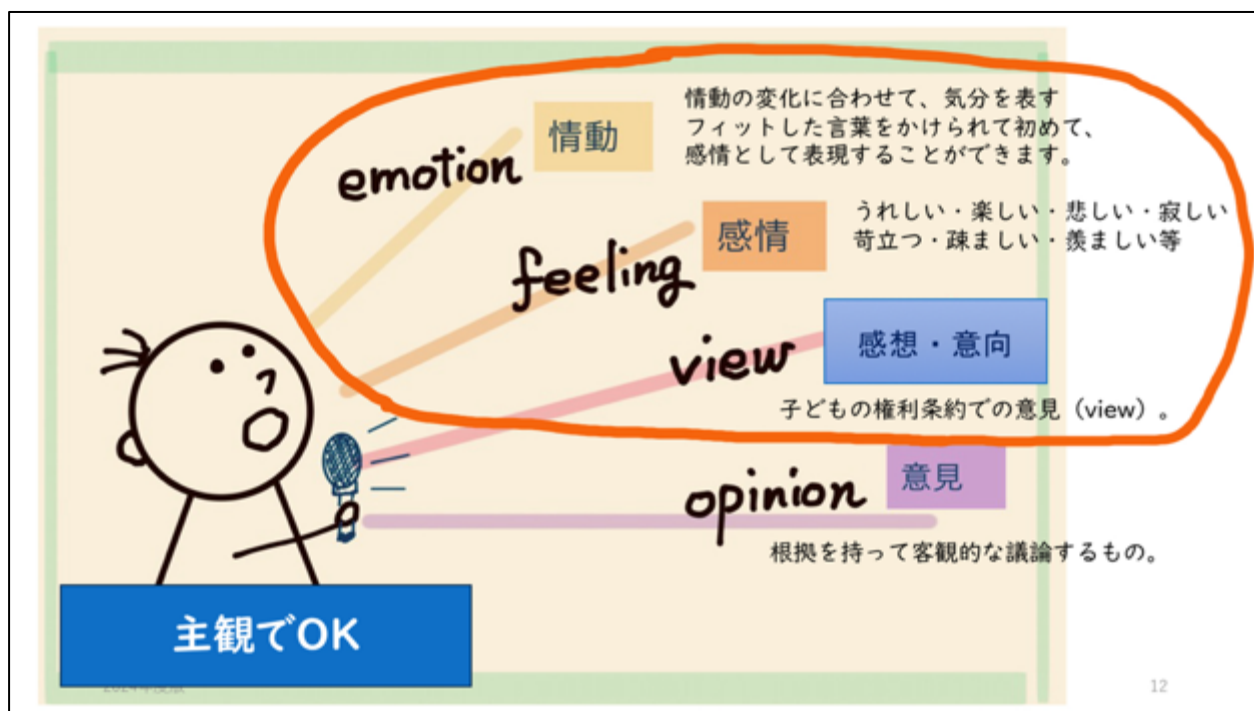
【子どもからの声】

～「にじトーク」に参加した後の子どもたちにインタビューをしました。4年生たちの声です。～

- ・ ここは、おとなが話をまとめないからいい。
- ・ 丸ごと聞いてくれるからいい。
- ・ タメ口で話せるからいい。
- ・ どんなことも笑顔で聞いてくれる。

- ・一緒に考えてくれる。
- ・この場所全部がいいんだ！ハコ推し！

(注：アイドルグループの推し活でグループ全体を推していることを「ハコ推し」と言うそうです。)



2023年度の報告書では「子どものカラダはおしゃべり好き。」というコピーを作成しました。それほどまでに子どもたちは自分を表現するパフォーマンスのほとんどはトークアウトではなく、アクアウトだったからです。にじトークでは、「OPINION」ではなく「情動 emotion」「感情 feeling」「感想・意向 view」の全てのフェーズを安全に表現できる「意見表明権」を保障することを目指しています。

Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

日本財団2024年度

にじトークにくる子どもたちのニーズ

来場者数	2203人
聴いて聴いて	808エピソード
アドバイスがほしい 伝えて	64エピソード 20エピソード
342グループが来て、約802人以上の子どもが、大人と話した。	
みてて	約1401人

©2024 CAP 日本財団2024年度報告書 107

来場者数

2024年度は、4月～7月5校。そして9月～3月に7校の小学校に訪問しました。多くの子どもたちが自分の表現を評価することなく、ありのままの表現を見てほしいと望んでいました。例えるならば縁側でゆったり座って、お茶を飲みながら目を細めてニコニコと子どもの姿を見守るようなイメージで、にじトークを大事にしました。このマニュアルを見て実践し

てくださる人たちにも、大切にしてほしいポイントです。子どもがアドボケイトを使う前には、この「みてて」に応えるおとなの存在が不可欠だからです。

ここが「CAP プログラムと連動したアドボケイト派遣事業」の最大の魅力です！

Q & A 「困った！どうしよう！」とトークスタッフが思ったらどうしたらいい？

・子どもに…

「話してくれてありがとう。私は分からないから、コンシェルジュの〇〇さんにも一緒に聞いていい？」

「これは、二人だけの話にしていると、あなたの安心がどんどんなくなっちゃうから、〇〇にも一緒に考えてもらおう。あなたはと思う？」

…と子どもに率直にお願いして、すぐにコンシェルジュを呼んでください。

オープンに「〇〇さ～ん！」と呼びましょう。

「1人より2人の方が安心だもんね」というCAP子どもワークショップで伝えるメッセージそのものです。

リスクに気づいたらコンシェルジュを呼ぶ

こんな時に呼んでね！

- ・大人や2歳以上年上の子ども、からのセクハラ
- ・夜間一人でいる。子どもだけでいる。
- ・それを誰も知らない。
- ・危険な叩かれ方をしたり、蹴られたりしている
- ・保護者から「ばか」「死ね」「殺すぞ」と言われる
(児童福祉法・児童虐待防止法)

※答えに迷う～～！と思う時

呼んでね

家庭で	学校で	外で
性的なことをされた 性的なことをしている グルーミング	性的なことをされた 性的なことをした グルーミング	性的なことをされた 性的なことをした グルーミング
貧困	いじめ	万引き 放火
DV目撃・虐待	体罰	お金のトラブル
ヤングケアラー	友だちの自死計画	パレ活

Q & A 子どもが話してくれた話題がわからな～～い！聞き直したいけど、迷う！

- ・ ゲームの名前なのか？！アイドルグループの名前なのか？！聞き取れない？！と不安になった時は、どうぞ率直に「ねえ、それってなに？教えて」「そのアイドルのこと詳しく聞かせて」「そのゲームのどんなところに夢中なの？聞かせて」と子どもに聞いてください。アドボケイトは常に子ども本人に聞きます。

Q & A 「〇〇ムカつく！！死ねばいいのに！！！」等、言ってはいけない言葉をしている時は、どう聞いたらいい？

- ・ 「そうなんだね。それくらい、腹が立ったってことなんだね。」と情動の言語化を手伝ってください。そして「よかったら、どんな時にそう思うのかももっと詳しく聞かせて」と子どもに聞いてください。

発見よりも、練習重視！



「スッキリしたね」「楽しかったね」が次につながる

頭の中であれやこれや考えていることを話すことで「整理」「選択」「決定」のプロセス



コンシェルジュ（案内係）＝にじいろCAPスタッフが交通整理

おとなに
しないことは
こどもにも
しない

勝手にさわらない

勝手に決めつけない

気づきがあったら、教えてもらう

グランドルールを大事にする
（アイメッセージ）



8. 児童養護施設での「にじトーク」活動から今後の展望を考える(子どものインタビューより)

児童養護施設でも「にじトーク」を実施しました。都道府県や政令指定都市が実施するアドボカシー事業とは別途に導入をしてもらいました。自治体から派遣されるアドボケイトとの違いも含めて子どもや施設職員から声を聴かせてもらいました。

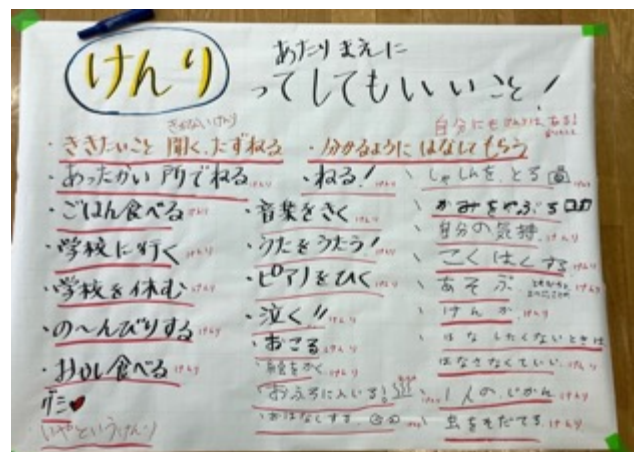
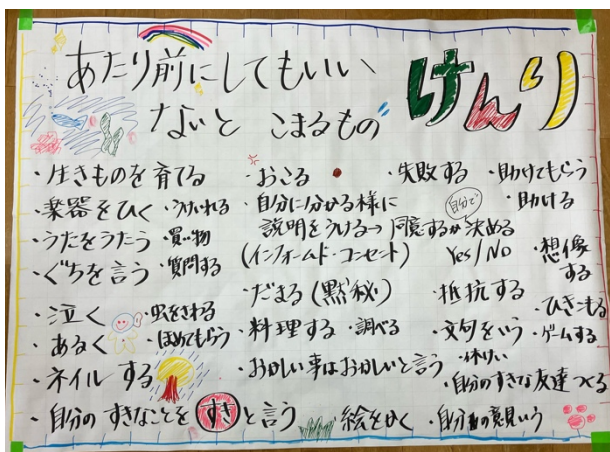
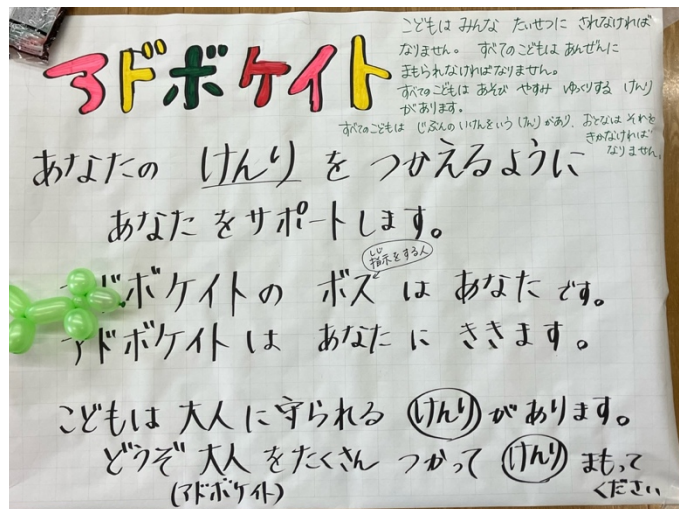
- **にじトークの良いところ** —「**ここは自由だから好き。**」と複数人の子どもから声が上がりました。彼らのいう「自由」とは「子どもを信じている姿勢」や「常に『どうする?』『どっちにする?』『どう思う?』と本人の意思確認を丁寧に行なっているからではないかと思われます。選べる選択肢があること。選ぶ権利が本人に委ねられていること。選び直しができること。この3つは「にじトーク」開催にあたり、どの実践団体にも行なってほしい部分です。
- **国のアドボケイト制度について** —「いきなり知らないおとなと話すのは緊張するから話せない。だから、どんな人か知るために一緒に遊びたい。一緒に遊べば、どんな人か分かって安心して話せる。」と子どもが話してくれました。アドボケイトは子どもが持っている権利です。どんなに遠方から時間を割いてきたとしても、「せっかくきたんだから」「せっかくのチャンスだから」とおとな側の欲求を子ども本人の意見を無視して選ばせることは最善の利益でもなんでもありません。暴力であることを誰もが知ってほしいものです。
- **遊ぶとはどういうことか?** —「小学生なら、一緒に何かを作ったり、ダンスを踊ったり。ゲームとかもいい。高校生や中学生ぐらいなら、『何か困っていることはない?』と聞いてほしい。」CAP プログラムの11の理念(サリー・クーパー)に「年齢や文化に合わせた伝え方をする」があります。まさに、常に当事者に最も負担なく取り入れられる伝え方を本人に聞きながらチューニングすることがアドボカシーには必要なのだと認識したメッセージでした。
- **児童相談所の人へ**「もっと笑顔で話を聞いてほしい。マスク越しでは表情が分からず、怖いと感じてしまう。怒っているのかな、怒らせたのかなと思うと、話しづらい。」社会的養護のもとに暮らす子どもたちはACE(子ども期の逆境的体験)を抱えている子どもがほとんどでしょう。おとなの都合に振り回されたり、抑圧されたりした体験を大なり小なり持っています。当然ながら生き延びるためにそばにいるおとなの顔色や声色に合わせてきた体験を持っています。だからこそ子ども自身の内なる声を発信できる準備や環境づくりを怠らずにいたいと思わせてくれたメッセージでした。
- **児童相談所の人へ**「もっと早く動いて欲しい。会議をしてほしい。言ったら1ヶ月以内には来て欲しい。」当たり前のことです。子どもは「今」に生きています。不安になった時に、必要な手立てがあることや、必要とする人がそばにいてくれることはアタッチメント形成の面から考えてもタイムリーなアプローチが必要です。社会的養護のもとに暮らす子どもだから、もっとすぐに対応できることを重要視してほしいものです。そして、これは迅速に対応したくてもできないシステムの問題ではないでしょうか。

9. 今後に向けた取り組み

「にじトーク」は2年目の活動を経て、多くの子どもたちが自主性を発揮する場となってきました。「にじい CAP の社員になりました!」と自作のネームを作り、受付を担当する子どもた

ぜひ、この文化をマニュアルを手にとってくださった皆さまと築いていきたいと思います。

この3枚の模造紙は、児童養護施設で小学生チームと中高生チームとで作成したものの。「子どもが持っていて当たり前の権利とは？」の質問に子どもが答えたものを記入したり子どもが書き込んだもの。



最後に

CAP プログラムと連動したアドボケイト派遣事業「にじトーク」を通じて、子どもたちから学ぶ毎日が続いています。子どもたちに信頼され、選ばれるおとなになるためには、極めてシンプルなこと——「子どもにきく」姿勢がどれほど重要なだったのか、気付く日々でした。

2年目の「にじトーク」は、地域の方々と共に取り組む活動として展開しました。子どもたちの話を喜んでいく地域の方々の姿を目の当たりにし、この風景が子どもたちにとって「当たり前」となり、「子どもアドボカシー」が日本の文化として根付く礎の一つとなることを願い、3年目へと歩みを進めたいと思います。

また、「にじトーク」の活動を支えてくださった小学校の先生方、児童養護施設の職員の方々、そして会場を訪れてくれた子どもたちに心から感謝申し上げます。

「にじトーク」事業担当 にじいろ CAP 理事 田原 泉
にじいろ CAP スタッフ一同

このマニュアルを用いて、あなたの地域でも実践をしようと考えてくださった方へ
いつでもご連絡をいただければ、いっしょに考えます。

ご連絡をお待ちしています。
にじいろグループ合同事務所
nijicap@nijicap.com